

新たなる出発

第18代学校長 河合 邦光

創立60周年おめでとうございます。心からお慶び申し上げます。私が県立芦屋高等学校に赴任したのは、阪神・淡路大震災の無残な爪跡がまだあちこちに残っている平成8年の4月でした。

県芦60年の歴史を語るとき、最も忌まわしくも悲しい出来事ともいえる震災は避けて通ることができません。私の在任中は、とにかく震災からの復興の2年間だったといえます。着任して間もなく、中・南館の解体が始まり、来る日も来る日も騒音と土埃の中で校舎が瓦礫の山に変わって行くのを寂しい気持ちで見つめる日々でした。やがて更地になった所に380本ものコンクリート柱が打ち込まれ、頑丈な基礎工事の上に新校舎建築が始まりました。そしていざ覆いがはずされ、校舎の全容が姿を現したときのあの身が震えるような感動は、今でも鮮明に脳裏に焼き付いています。その後、仮設校舎の撤去、テニスコート、バレーコート、グラウンドの整備、ぎりぎりまで残った情報処理室の整備まで、復興事業をすべて完了させて引継ぐことができ、一応責任を果たせました。

一方、この間の極めて不自由な生活にもかかわらず、一言の不平不満ももらさず常に前向きに学校生活を送った生徒たちの姿に、「自治・自由・創造」に裏付けられた伝統が脈々と受け継がれているのを見る思いがして胸を打たれました。

また、「あしかび会」に藤棚整備と、震災メモメントの寄贈をしていただき、新たな出発を目指す学校にとって大きな励みになりました。

このように環境が整備され、人間でいえば還暦に当たる記念すべき節目を迎えた県立芦屋高等学校が、さらなる優れた伝統を築き、ますます発展を遂げるよう願ってやみません。